

グローバル・ビジネス研究科 対談

研究科長 山村 能郎 × 修了生 左向 貴代



山村 左向さんはグローバル・ビジネス研究科在学中に転職をされるという経歴をお持ちですが、入学当時から現在までのお仕事について、お話を聞かせてください。

左向 グローバル・ビジネス研究科に入学した時は自動車メーカーで働いており、車の情報を通信技術を利用して収集し、価値を提供する「コネクテッド」に携わっていました。2017年にIT企業へ転職しましたが、変わらずコネクテッドに関わっています。私のように自動車会社での経験がある社員が多いので、自動車業界とIT業界をつないで付加価値を見出せないかということに取り組んでいます。電気自動車が進んでいますが、現在はIT企業が持つデータサイエンスの力と、自動車メーカー出身者の力を掛け合わせて、事業の立ち上げを検討しています。

山村 IT業界と自動車業界の関係が深まっており、それは自動車業界での生き残りにも関わっています。そうした中で、グローバ

ル・ビジネス研究科に入学してどのようなことを学びたいと考えていましたか？

左向 コネクテッドに関わるビジネスが、なかなか収益に結びつかないという状況がありました。そこで、会計学やアカウンティングなどを学ぶことで、社内においてコネクテッド分野で第一人者としてビジネスを成功させたいと思い、グローバル・ビジネス研究科に入学しました。

山村 働きながら学生として勉強をするというのはとても大変だったと思いますが、実際の学生生活はいかがでしたか？

左向 「なんでも吸収しよう」という思いから多くの科目を履修した結果、学期末になるとその分だけレポートの作成に追われることとなり苦労したこともありましたが、「勉強をする」ということがとても楽しかったです。実務に生かすことができていると感じたのは、講義中心のインプット型の授業でした。理論を自分に定着させるころまでお話を聞くことができました。



たし、自身の事例との差を検証したい場合に先生に質問をすると、より丁寧に解説してくださいました。講義で培った基礎をもとに、プレゼンテーションやグループワークを行うアウトプット型の授業で実践することもできたので、迷うことなく学ぶことができました。授業で聞いたことと、私の周りで起きているビジネスの現場との接点が明確となり、とても興味深かったです。

山村 実務家教員が多数在籍しているの、研究科での学びとビジネスの世界とのつながりがわかり

やすいと思いますし、そこは強みだと考えています。

グローバル・ビジネス研究科の大きな目的は、ビジネス界でのリーダーを育成することであり、それこそが授与する学位のMBA

(Master of Business Administration)の目的のひとつでもあります。今、職場のリーダーとして考えていることや、今後グローバル・ビジネス研究科に求められることについてお聞かせください。

左向 私は先頭に立って周りを引っ張るようなタイプではなく、一緒に取り組む人たちが成果をあげられる環境を作りだせることが強みだと思っています。リーダーである私の力や理解の範囲で物事を判断すると、私の能力以上の成果は得ることができませんので、周りと協力してより良い成果をあげるにはどうすれば良いかを考えています。

グローバル・ビジネス研究科で過

ごした2年間では、私のような例をはじめ多様なリーダーの姿が認められていました。しかし、既存の企業ではそうではないことが多いので、実学と実務の世界が近づく場を増やすことで、こうした考え方が普及していくといいですね。

山村 多様なリーダー像が認められる社会の実現は我々にとっても課題であり、左向さんが修了生として体現されていることはとても誇らしいことです。今後も時代の変化に対応できるリーダーの育成に努めていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

PROFILE

左向 貴代
Kiyo Sako

2017年グローバル・ビジネス研究科グローバル・ビジネス専攻修了。株式会社ディー・エヌ・エーにてCSV・安全推進室室長およびスマートシティ統括部モビリティ事業戦略室室長を務める。


